



年中夜堂夜堂
ねんぢやう
織物染物
重宝字書
元 齋 版

年中夜堂夜堂



織物字彙

金襴 純子 唐織 縐子 綾子 錦綾 羽二重 縮緬 毛織 紅 丹所 得 天鵝絨 程 緞

小絹 地 絹 縮 博多織 桃山織 斜子 丹波織 更紗 織 織 織

夜臺文章

高伴寬述



佳吉人又いまこ
閑す樹の葉は燈
裸體に掩し簀簀
多りしもの棚棧

命神線入
命城
夜上織
天白世七年其好

沙汰すつ幾ふつぬんハ
暫周之沙汰より下
年中夜書之先宛存
元日高貴はは常下ハ
厨斗月麻之枯成

下月て紋付小袖成
先す七巻子元後
初秋後国以十月廿八日
あは七後紗小袖麻本
成之し一濃城初也二月

二月 穀旦の庚日の二日二月

旨之色のそら白た後紫油

解不七月 穀旦の庚日

粘心油解不 松式ふよん

今月 九月 八月 運

の皮衣と止む但夏は皮衣と

用ふはよく痛まはし赤い痛と

のりとはし十の母八月腹紗粘

麻ふ下物て二月 穀旦

く架あ月と旨とまて 粘と

五月 野 葛 根 中 生 之
 式 履 亦 根 皮 用 年 後 一
 草 物 之 皮 上 少 九 世 煎
 紋 有 草 物 麻 之 下 一 号
 是 子 亦 有 每 日 煮 六

麻 之 下 一 号 一 月 晒 白
 瑞 之 中 一 号 一 月 晒 白
 草 物 之 皮 上 少 九 世 煎
 式 履 亦 根 皮 用 年 後 一
 五月 野 葛 根 中 生 之

後也一章と用ひ八月
廿八日深帷子麻糸七尺
部と同形 七尺と文の留
厨下尺成り尺寸格式
白帷子麻糸七尺糸八

深帷子十月廿八日糸八
同形 八尺 朝日糸の
式目白帷子麻糸七尺糸
用 糸の目廿八日深帷子
麻糸七尺九月部 服糸

麻之令今日自速護用
奉殿の法たすむは是こゝに最さいと六
重ちう有あ之し九日くわにち重陽ちゆうやうのちゆうき日にち白
深ふか小袖こすそ麻あ不ふ諸しよ候こう定じやう
祝いわい多おほ小袖こすそ不ふ限かぎ今日けふ是こゝ自みづか

所ところ方かたとと是こゝにに儀ぎ家け成じやう用よう事ことは日にち
共とも旨しみハは報ほう目めふふ同どう十月じゅうがつ十一じゅういち日にち
十一じゅういち日にちのの二に百ひゃく共とも同どう以もつ
其その外ほか正月しょうげつ十一じゅういち日にち鏡かがみ園えん六む
本ほん或ある十一じゅういち日にち梅うめ柳やなぎ等らう以もつ合あは

大晦日 本年 終 願 年 賀 慶

下 城 宮 一 月 九 日 乃

月 月 七 友 の 決 と 誓

之 時 願 一 下 乃

或 如 決 不 悔 無 終 乃

願 年 月 指 布 潔 下

新 送 不 悔 明 の 願 年 月 之

願 終 不 神 惟 乃 祝 賀 是

花 鳥 潔 乃 時 の

下 下 重 賀 乃 平 賀 乃

正 後 どのあり
後 平後 孫織
後 孫織
見之 錦 入 孫 内 孫
お 懸 心 孝 初 後 小 胸 の

惟子 極 良 小 錦 蘭 石 小
後 小 後 小 後 小 後 小
合 羽 大 車 羽 織 也 日 後 考 の
衣 裳 の 古 者 如 け 小 考

十二月二日 倭名同略解

正月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
<p>略月といふは月半物性未だ うらむに類するなり他余ても年 の始に候ふといふなりか ゆきといふは月風あつた はまりて草木は生ずるなり おひといふは略してやまひといふ 自月といふは四月田を耕すの 始に候ふなり六月と云ふと 略してさつれといふなり</p>	<p>略月といふは月半物性未だ うらむに類するなり他余ても年 の始に候ふといふなりか ゆきといふは月風あつた はまりて草木は生ずるなり おひといふは略してやまひといふ 自月といふは四月田を耕すの 始に候ふなり六月と云ふと 略してさつれといふなり</p>	<p>略月といふは月半物性未だ うらむに類するなり他余ても年 の始に候ふといふなりか ゆきといふは月風あつた はまりて草木は生ずるなり おひといふは略してやまひといふ 自月といふは四月田を耕すの 始に候ふなり六月と云ふと 略してさつれといふなり</p>	<p>略月といふは月半物性未だ うらむに類するなり他余ても年 の始に候ふといふなりか ゆきといふは月風あつた はまりて草木は生ずるなり おひといふは略してやまひといふ 自月といふは四月田を耕すの 始に候ふなり六月と云ふと 略してさつれといふなり</p>	<p>略月といふは月半物性未だ うらむに類するなり他余ても年 の始に候ふといふなりか ゆきといふは月風あつた はまりて草木は生ずるなり おひといふは略してやまひといふ 自月といふは四月田を耕すの 始に候ふなり六月と云ふと 略してさつれといふなり</p>	<p>略月といふは月半物性未だ うらむに類するなり他余ても年 の始に候ふといふなりか ゆきといふは月風あつた はまりて草木は生ずるなり おひといふは略してやまひといふ 自月といふは四月田を耕すの 始に候ふなり六月と云ふと 略してさつれといふなり</p>	<p>略月といふは月半物性未だ うらむに類するなり他余ても年 の始に候ふといふなりか ゆきといふは月風あつた はまりて草木は生ずるなり おひといふは略してやまひといふ 自月といふは四月田を耕すの 始に候ふなり六月と云ふと 略してさつれといふなり</p>	<p>略月といふは月半物性未だ うらむに類するなり他余ても年 の始に候ふといふなりか ゆきといふは月風あつた はまりて草木は生ずるなり おひといふは略してやまひといふ 自月といふは四月田を耕すの 始に候ふなり六月と云ふと 略してさつれといふなり</p>	<p>略月といふは月半物性未だ うらむに類するなり他余ても年 の始に候ふといふなりか ゆきといふは月風あつた はまりて草木は生ずるなり おひといふは略してやまひといふ 自月といふは四月田を耕すの 始に候ふなり六月と云ふと 略してさつれといふなり</p>	<p>略月といふは月半物性未だ うらむに類するなり他余ても年 の始に候ふといふなりか ゆきといふは月風あつた はまりて草木は生ずるなり おひといふは略してやまひといふ 自月といふは四月田を耕すの 始に候ふなり六月と云ふと 略してさつれといふなり</p>	<p>略月といふは月半物性未だ うらむに類するなり他余ても年 の始に候ふといふなりか ゆきといふは月風あつた はまりて草木は生ずるなり おひといふは略してやまひといふ 自月といふは四月田を耕すの 始に候ふなり六月と云ふと 略してさつれといふなり</p>	<p>略月といふは月半物性未だ うらむに類するなり他余ても年 の始に候ふといふなりか ゆきといふは月風あつた はまりて草木は生ずるなり おひといふは略してやまひといふ 自月といふは四月田を耕すの 始に候ふなり六月と云ふと 略してさつれといふなり</p>

江馬馬喰町二丁目
森屋治兵衛板

Handwritten text in cursive style, likely a commentary or a list of names related to the calendar entries. The text is written vertically from right to left.

